

まもなく完成

津市美杉総合文化センター

昨年6月に着工した、津市美杉総合文化センター建築工事は、本年3月の完成に向け順調に工事が進められておりますので、完成間近のセンターの状況をご報告します。

建物は外装工事がほとんど終了し、内装工事や外回りの植栽、舗装工事を中心に施工されています。



正面玄関付近



多目的ホール

(写真は、1月20日撮影のものです。)

3月31日(月)10時から、開設式と内覧会を予定しています。

詳しくは来月号でお知らせします。

担当:地域振興課

電話:272-8080

目次

まもなく完成 津市美杉総合 文化センター	1
竹原診療所を 支える先生方	2 3
消防団 新春表彰伝達式	4
手づくりの餅花で おもてなし	4
歳末もちつき大作戦	4
おさかなまつり in美杉	4
新春恒例歩こう会	5
下之川ごんぼまつり のご案内	5
申告相談会日程	5
特集「三重テラス」	6 7
防災メモ	7
美杉図書室休館 のお知らせ	7
伊勢本街道を活かした 地域づくり協議会 販売部会員を募集	7
お知らせ	8

【編集の記】

初めて、県外からの寄稿を紹介させていただきました。竹原診療所の紹介も、久しぶりだと思います。「三重テラス」や「つデイ」などという言葉も、初めて目にされるかも知れません。

美杉総合文化センターも、もうすぐ完成です。その頃には、春も本番を迎えることとなります。

寒さも、それまでの辛抱です。お大切に。

津市国民健康保険 竹原診療所を支える先生方

昨年11月号の美杉だよりでもお知らせしましたが、竹原診療所の先生に変更がありました。金曜日を担当していただいている美杉診療所の田中先生には以前から長い間お世話になっていますが、あとの3人は、昨年から県立一志病院の先生に来ていただいています。

平成22年に策定された「津市過疎地域自立促進計画」では、「過疎地域における医療を確保するために、国民健康保険診療所を地域医療の拠点に位置付け」としています。津市総合計画後期基本計画の美杉地域の地域かがやきプログラムが目指す「地域住民の健康づくり支援や高齢過疎地域における医療体制の確立」のためには、この竹原診療所を有効に活用し、地域医療の拠点施設として守り、育てていかなければなりません。

そこで、竹原診療所を支えていただいている先生方をご紹介しますとともに、先生方の地域への思いをお伝えすることにしました。

竹原診療所 先生方の担当曜日

四方	哲先生	…	月曜日
小嶋	秀治先生	…	火曜日
近藤	諭先生	…	木曜日
(上記3日は、13時～15時)			
田中	仁史先生	…	金曜日
(13時～16時)			

四方 哲（しかた さとる）先生



京都府綾部市の出身で、44歳。平成24年8月に一志病院に着任され、翌9月から院長を務められています。竹原診療所には、昨年11月に着任していただきました。

津市国民健康保険診療所の今後のあり方については、「現在の竹原診療所は一志病院に極めて近く、他の地区からのアクセスの利便性を考えると、将来的には津市国民健康保険診療所の場所も住民の方々に検討していただく必要がある。今後の地域医療のあり方や国民健康保険診療所の位置などについては、地域を一番よく知

っている地域住民の方々の意見を伺う必要があるのではないか」とおっしゃいます。

地域住民の皆さんや総合支所への要望もあります。「地域の医療のことは地域住民と総合支所の職員が一番よく知っているの、いっしょに考え、話し合う場が必要であり、そこに医療関係者も加わって話ができればより効果的。若い医師が地域に住む場所の提供もしていただければありがたい。」

地域住民と医師の関係については、「地域の方は医師を特別扱いせず、文化や歴史など地域のことを教えてくれる存在になって欲しい。このことが、若い医師や医学生が地域に定着していくきっかけになる。一人の住民として付き合い合っていただくことで、若い医師に地域への愛着が育っていく。地域で医師を育ててあげて欲しい」と話されました。

小嶋 秀治（こじま ひではる）先生

石川県生まれの40歳。神奈川県で医学を学び、卒業後は北海道から沖縄まで、色々な地域で家庭医療に携わってこられました。三重大学医学部の竹村教授とのご縁で、平成24年9月に三重県に来られました。竹原診療所には、今年の4月に着任していただきました。

「大病院は、それぞれの専門分野の視点で病気を診るのが役割です。地域に密着した医療機

関は、様々な領域にわたる頻度の高い病気を診ることに加えて、予防や介護を含めて一貫したきめ細やかな医療を提供することが役割です。その役割こそが、家庭医療の魅力」なのだそうです。

「美杉には、訪問診療で、竹原診療所に着任する以前にも訪れたことが



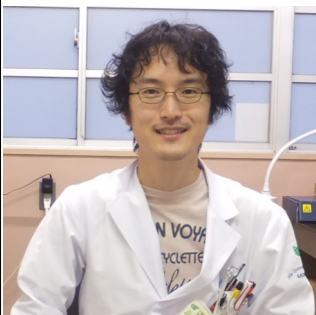
あるが、奈良県を越えていかなければならない地区もあり、とにかく広く、移動にも時間がかかる。交通手段も少なく、住民の方々に助け合っているとよく聞く」そうです。

美杉地域の医療の拠点としての国民健康保険診療所は、「交通の便を考えると竹原でもいいのかも知れないが、広い地域のどこからでもアクセスしやすい場所を考えていく必要があるの

近藤 諭 (こんどう さとし) 先生

鈴鹿市出身の30歳。三重大学医学部を卒業後、平成23年に一度一志病院に着任されましたが、その後他の病院に転勤され、昨年2月に再び一志病院に戻られました。竹原診療所には、昨年の11月に着任していただきました。

学生のと看修医のと看時に一志病院で実習されており、時間を見つけて北畠神社や三多気にも行ったことがあるのだそうです。「広い地域に集落が分散している。近所の人に診療所ま



で車で送って来てもらう患者さんもあり、随分助け合いの精神が生きているところ」だというのが、美杉地域の印象だそうです。

家庭医療については、「専門的な治療は

ではないか」とのことでした。

地域住民に望むこととしては、「医療機関の利用の仕方を考えて欲しい。内科、整形外科、精神科などをはしごする傾向があるが、医療政策の立場からも、患者の負担を考えても費用が余計にかかる。先ず、総合診療、家庭医療を受診して欲しい」とおっしゃっていただきました。

専門医に任せるが、一定の治療後は家庭医療が引き継ぎ、地元の先生方と連携して、医療システム全体で地域住民をサポートするのが理想」だそうで、「健康増進や疾病予防のことなどを住民の皆さんに学んでもらうことも家庭医療の大切な役割」なのだそうです。

地域住民へのメッセージとしては、「高齢化を踏まえながら、住民自らが健康でいられる努力をして欲しい。地域のつながりを大切にしたい、みんなで何かをすることを考え、助け合いのコミュニティを守っていくことが、健康でいられる原点ではないだろうか」ということでした。



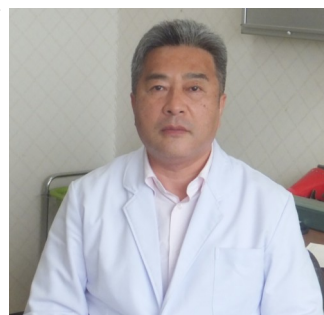
看護師の今井昭子さん(左)と事務の横谷時子さん(右)

田中 仁史 (たなか ひとし) 先生

竹原診療所には昭和61年からお世話になっており、着任後28年を迎えられます。着任されたときは「現在の診療所より300メートルほど離れた、君ヶ野ダム関連の施設を間借りしていて、わかりにくい場所にあった」のだそうで、長い間竹原診療所を支えてくださっている田中先生と竹原診療所との貴重な歴史を感じるお話でした。

「診療所の業務は、診察、内服検査等といった一般診療に限らず、健康相談や検診、予防接種、介護認定、診断書の作成、さらには病診連携という病院との間で診療情報を共有するなど広い範囲に及んでいる」ということで、まさにこれが総合診療、家庭医療そのもののような気がしました。

美杉地域は高齢化が著しく、「現在では、後期高齢者の診察がほとんど」なのだそうで、「高齢化に関しては全国どこでも同じだから、美杉地域だけで解決できる手段もなさそうだけれど、今後は、老人の一人暮らし、老人夫婦世帯での支え合い、老々介護の問題などにどう向き合うかが、コミュニティを維持していくポイントになるだろう。地域を維持していくためには、商業施設や公的機関、医療機関の存続とその移動手段の確保が不可欠。竹原診療所は、今後もその一翼を担っていく必要があるだろう」と、地域の課題も語っていただきました。



消防団新春表彰伝達式

1月12日(日)、美杉総合開発センターにおいて、164人の消防団員が参加し、「美杉方面団新春表彰伝達式」が行われました。それぞれの功績をたたえた賞状が団員に伝達・授与され、受賞者を代表し第1分団横谷分団長が、「今後、ますます消防団活動に精進していきます」と謝辞を述べました。



手づくりの餅花でおもてなし ～ステキでしょ！～

12月14日(土)、八幡地域住民センターで、かわせみ庵主催による餅花づくり教室が開催されました。

当日は、市内外から多くの参加者があり、赤と白の紅白のお餅を、くろもじにつける作業を楽しんでいました。

男性の参加者も多く、できあがった餅花を満足そうに眺める姿もみられ、早くお正月を迎えたい様子でした。

また、参加者は、同日開催された八幡地域活性協議会による街道市で、地元の野菜やしめ縄等も買い求め、新年を迎える準備をし、楽しい一日を過ごしました。



熱心に作業中



男性の参加者



指導中の岡野幸恵さん

歳末もちつき大作戦 2013



あったか正月を実現する会主催の「歳末もちつき大作戦2013」が12月22日(日)、津市美杉高齢者生活福祉センターで行われました。

前日の準備も含めて中学生の皆さんをはじめとする大勢のボランティアさんが参加して、一生懸命餅つきをしていただきました。出来上がったお餅は、80歳以上の高齢者のおみえになる815世帯に配布されました。



おさかなまつり in 美杉 ☆

12月21日(土)、道の駅美杉で「おさかなまつりin美杉」が開催されました。白塚水産加工業協同組合が提供するおさかな販売はもちろんのこと、美杉特産品の販売が行われ、町内外から大勢の方が来訪され、思い思いにイベントを楽しんでいました。福引抽選会では、おさかな特産品・美杉特産品の当たりを引いて、会場内に鈴が鳴り響きました。



新春恒例歩こう会

多気体育振興会・上多気区

1月2日(木)、恒例の新春歩こう会を開催しました。今年で29回目の開催となり、76人の参加をいただきました。この日は、風が少し強かったものの好天にめぐまれ、参加者は、多気地域住民センターを出発し、丹生俣の木戸稲荷神社までの往復11kmを歩きました。木戸稲荷神社では、氏子の方々に盛大な歓迎をいただき、ほころにお参りした後、焼き餅の入ったぜんざい等をふるまっていたいただき、代表者の小竹典男さんから稲荷さんのいわれなどをお聞きしました。木戸稲荷神社の氏子の皆様、新年早々ご協力いただきありがとうございました。



下之川ごんぼまつりのご案内

今年も、下之川ごんぼまつりが開催されます。仲山神社に400年ほど前から伝わるこの行事は、子孫繁栄と五穀豊穡を祈願して行われる神事で、「弓神事」や「まな板神事」が、古式にのっとり行われます。

また、地元の皆さんが丹精込めてつくった「祭ごんぼ」の販売や玄米小豆粥の振る舞いなども行われますので、ぜひお越しください。



日時 2月11日(火・祝)
10時～12時30分頃まで
場所 仲山神社 (美杉町下之川)

申告相談会日程

詳しくは、広報津 1月16日号をご覧ください。

美杉地域内において下記のとおり申告相談会が開催されます。但し、次の①から⑨の申告は申告相談会場で受けることはできませんので、税務署が開設する確定申告会場（イオン津南ショッピングセンターサンバレー2階イベントホール）で行ってください。

①青色申告 ②株式や土地等の譲渡所得の申告 ③初めての住宅ローン控除 ④死亡者の申告 ⑤国外扶養者の控除の申告 ⑥損失の申告 ⑦外国籍の人の申告 ⑧収支内訳書（農業所得・不動産所得等）が未完成の場合 ⑨個人事業者の消費税及び地方消費税、贈与税の申告

また、市民福祉課及び各出張所窓口では完成した確定申告書を受取り税務署へ送付するのみとなりますので、申告の相談は各会場へお越しください。

申告相談会

八幡地域住民センター	2月 7日(金)	9時～11時30分	多気地域住民センター	2月 7日(金)	13時～16時
下之川地域住民センター	2月10日(月)	9時～11時30分	竹原地域住民センター	2月10日(月)	13時～16時
伊勢地地域住民センター	2月12日(水)	9時～11時30分	太郎生多目的集会所	2月12日(水)	13時～16時
美杉総合開発センター	3月 6日(木)	9時～11時30分及び13時～16時			

公的年金等受給者のための申告相談会（白山公民館農民研修室）

2月12日(水) 9時30分～11時30分及び13時30分～15時30分

確定申告会場（イオン津南ショッピングセンターサンバレー2階イベントホール）

2月17日(月)～3月17日(月)9時～17時(土曜・日曜は開設していません。但し、2月23日(日)及び3月2日(日)は開設します。)

問い合わせ：所得税等 津税務署 ☎228-3131 市県民税 津市役所市民税課 ☎229-3130

特集

三重県のアンテナショップ

「三重テラス」を紹介します

三重県の食や歴史、伝統文化などの情報発信を行うアンテナショップ「首都圏営業拠点『三重テラス』」が、昨年の9月28日、東京都中央区日本橋の浮世小路千疋屋ビルの1階と2階にオープンしました。

1階には特産品の展示、販売を行う物販コーナーと三重県の食材を使った料理が食べられるレストランがあり、2階は催し物などに使われる多目的のホールになっています。物販コーナーには、津市の特産品や津市で生産された商品もたくさん出品されています。2階の多目的ホールでは、毎月1回の予定で「つデイ」が開催され、津市の情報発信が行われています。この「つデイ」では、美杉の情報発信も行われています。

物販コーナーへの出品手続きについても、県の担当の方に伺ってきましたので、三重テラスに関する情報をまとめてご紹介します。



三重大厦入口

三重テラスに美杉の特産品を出品しませんか!?

物販コーナーへの出品手続きを確認するため、県庁を訪ねました。県の担当職員の話によると、まず県に所定の申請書を提出し、県庁内の商品選定会議の審査を受けます。この商品選定会議で出品が認められれば、県から三重テラスの運営を委託されている運営事業者と手数料等の条件を直接交渉することになります。運営事業者との間で条件等の合意に至れば、初めて出品が可能になるとのことでした。条件が合わなければ出品しなければいけないので、



1階物販コーナー



1階物販コーナー

まずはためらわずに申請してみてくださいとのことでした。

地域の特産物を生産、加工してみえる方は、首都圏での情報発信と市場開拓のためにも、一度三重テラスへの出品を検討されてみてはいかがでしょうか。

問い合わせは、県庁内の雇用経済部三重県営業本部担当課

(☎224-2411)まで

三重テラスの「つデイ」に

多気の郷元気づくり協議会がこけ玉を出展

昨年の9月にオープンした三重テラスでは、津市の情報発信を行う「つデイ」が毎月1回開催されています。昨年11月16日(土)に開催された第2回の「つデイ」には、多気の郷元気づくり協議会が「こけ玉」を出展しました。この日の「つデイ」に三重テラスを訪れた、三重県が「三重の応援団」をお願いしている埼玉県所沢市在住の高橋裕史さんから、そのときの模様を伝えるレポートが届きましたのでご紹介します。



「つデイ」で振舞われた美杉茶

寄稿

日本橋「三重テラス」から 美杉の地に思いを馳せて

所沢市在住 高橋 裕史 さん



2階多目的ホールに展示された多気城下絵図

三重テラスの入口では、「シロモチくん」が楽しそうに迎えてくれました。美杉のこけ玉さんは、2階会場入口の雛壇に、それぞれにご主人の草木を戴き、お客さんを歓迎していました。その装いは会場の賑わいの乾きを癒しているようでもあり、その振る舞いは「つデイ」開催を祝い、この日を見守る「緑の小さなお地蔵さん」のようでもありました。

第1回の「つデイ」で紹介していた森林セラピーと併せて、「美杉の森」が織り成す自然環境の豊かさをさりげなく教えているようでした。盆栽が「BONSAI」として世界に広まりを見せる今、「KOKEDAMA」が日本の自然の多様性を身近に感じるインテリアとして、デザイン性などの魅力を加えて、愛好者が広まると素敵だと思いました。



2階多目的ホールに展示された「こけ玉」

津市の歴史のひとつコマとして、南北朝時代の北畠氏と多気城下絵図とその解説の展示もありました。絵図には、現在の多気地域の景観写真を展示するなどの工夫がなされていましたが、さらに「語り」による説明があれば、お茶、こけ玉、森林セラピーと、美杉地域の人と文化を育んできた歴史が繋がって、より身近なものに感じられたのではないかと思います。

防災メモ

☆家族との連絡方法を決めておきましょう。

◇家族と連絡が取れず、自宅が被災した場合を想定し、家族で集合場所を話し合っておきましょう。

◇大規模災害時には、音声通話の回線がつながりにくくなるおそれがありますので、メール配信サービス（学校や福祉施設などで行っているところがあります）を活用しましょう。

◇災害時には一般電話より優先的に使用できる公衆電話を使いましょう。

◇東日本大震災では電話が繋がらない状況にありながら、ソーシャルメディア（パソコンや携帯で利用可能）が安否確認に役立ちました。家族でパソコンや携帯電話の活用方法を話しておきましょう。

美杉図書室休館のお知らせ

津市美杉総合文化センター整備事業に伴い、美杉図書室も移転いたします。移転準備のため、**2月1日(土)から3月30日(日)まで休館**させていただきます。よりたくさんの方にお越しいただけるよう新しい美杉図書室オープンに向けて準備しております。ご迷惑をおかけしますが、よろしくお願いいたします。

伊勢本街道を活かした地域づくり協議会 販売部会員を募集します！

平成26年4月にオープンする「伊勢奥津駅前観光案内交流施設」は、当協議会が津市から指定管理を受けました。この施設で物品等を販売された方は、下記の説明会にご出席願います。

日時：2月12日(水) 13時～

場所：八幡地域住民センター

問い合わせ：同協議会 ☎212-0174

